

Kindai Hospital Today

金沢大学附属病院 [KANAZAWA UNIVERSITY HOSPITAL] / 〒920-8641 金沢市宝町13-1 TEL:076-265-2000

— 病院長ご挨拶 —

病院の理念と 真摯に向き合い前進する時。

病院長 並木幹夫



皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年3月の北陸新幹線開業以来、金沢の街は大勢のお客様

を迎えて賑っています。金沢大学病院にも多くの患者様が受診され、有難く存じますが、あいにく駐車場が工事中で皆様に大変ご不便をおかけしておりますことを、お詫び申し上げます。本年夏頃には駐車場が完成予定で、平成13年の病棟、平成17年の中央診療棟、平成21年の外来診療棟と続いた病院の改築がいよいよ完了し、新たな金沢大学病院の歴史がスタートします。

言うまでもなく、病院の評価は建物で決まるものではありません。大学病院の役割である質の高い高度な医療を、安全に遂行することにより、患者様から信頼されますよう職員一同日夜努力しております。昨年、金沢大学病院は3つの外部監査を受けました。5月に日本医療機能評価機構による病院機能評価、8月に厚生労働省等による特定共同指導、そして9月に厚生労働省による特定機能病院の集中検査がありました。これらの監査の趣旨、目的は異なりますが、様々な改

善すべき点をご指摘いただきました。それらのご指摘は、金沢大学病院が今まで以上に患者様、ご家族、そして地域の皆様の信頼に応えられる病院であるために必要なことと謙虚に捉え、職員一同、新たな気持ちで診療に励んでおります。

今回のKindai Hospital Todayでは、金沢大学病院での様々な取り組み、頑張っている職員の一部をご紹介させていただきました。漢方外来、助産外来、緩和ケアセンターはいずれも昨年からスタートした新たな取り組みで多くの皆様から好評を得ています。看護師による「看護用具工夫作品展」では、日常業務の中で常に患者様のことを考えている中で生まれた多くの作品を展示しました。また、多くの認定看護師が生まれ、表彰を受けた職員もおり、それぞれの職場で職員が頑張っております。また、金沢大学病院の歴史を築いた先人達の中から、今回は「高安病」を発見した高安右人先生を紹介させていただきました。

金沢大学病院の理念は「最高の医療を提供するとともに、人間性ゆたかな優れた医療人の育成に努める」です。これからも、この理念に向けて職員一同頑張りますので、よろしくお願申し上げます。

Vol. 18

CONTENTS 《目次》

- 漢方医学科 …… 2P
～老若男女の花粉症の漢方治療～
- ようこそ助産外来へ …… 3P
がんとわかったときから始まる緩和ケア

- Kindai Hospital REPORT …… 4P
- 新・認定看護師 …… 6P
- 金沢大学病院の歴史をひもとく …… 7P
～高安右人先生と高安病～
- Information …… 8P

漢方医学科



漢方医学科長
小川 恵子

金沢大学附属病院では、漢方治療に対するニーズの高まりを受け、漢方治療を専門とする診療科「漢方医学科」を平成27年に設置しました。

漢方医学は、中国の伝統医学の影響のもと、日本の風土や日本人の体質に合わせて日本で独自に育ってきた伝統医学です。現代医学だけでは治しにくい症状でも、漢方治療を併用することで、症状をより改善できるというメリットがあります。

患者さん一人一人の状態をよく把握し、症状を改善できるよう、各診療科と協力しながら治療を行っています。

◆さまざまな症状でお困りの方が受診されています

乳児から高齢者まで老若男女を問わず、以下のような、さまざまな症状でお困りの方が受診されています。

- 冷え性や月経異常などの婦人科疾患
- 花粉症や気管支喘息のような体質的疾患
- 自律神経失調症などの心身の疾患
- がん治療に伴う副作用の軽減・防止
- 慢性肝炎や高血圧・糖尿病などの長期管理の必要な疾患
- 手術後の不調や体力低下の改善 など

◆漢方医学科を受診したいときは

完全予約制を実施しています。初診の方は、予約センターへ予約の電話をお願いします。

【予約センター】 ☎ 076-265-2933

○: 診察日	月	火	水	木	金
午前		○		○	
午後	○	○	○	○	○

(平成28年2月現在)

ALLERGY

コラム/アレルギー

老若男女の花粉症の漢方治療

春らしくなってくると、なんだかうれしい気分になります。でも、そこに影を落としてくるのが花粉症です。鼻炎症状が出ると、子供たちは勉強に集中できませんし、大人の方々はお仕事にも支障が出ます。特に女性の方はお化粧品崩れが気になります。花粉症の発症率は年々増加傾向にあり、低年齢化も進んでいます。最近では、花粉症に対する薬や治療法が開発されて、抗アレルギー薬の副作用である眠気もずいぶん改善されてきました。それでも、赤ちゃんにはアレルギーを抑える薬が使えない、お薬を服用すると眠気がひどくて服用できない、薬を服用してある程度は効くけれどすっきりしない、などの症状を訴える方もいます。そのような時に漢方薬を併用すると症状改善に役立つことがあります。

例えば、主に鼻詰まりがひどい場合には、葛根湯加川芎辛夷がよい場合が多くあります。おなじみの葛根湯に川芎と辛夷を加えることにより、より鼻の通りがよくなります。蓄膿、すなわち慢性副鼻腔炎もある場合にも使いやすいです。また、鼻が詰まって首筋がこったり、頭痛がしたりする場合にも効果があります。

葛根湯加川芎辛夷の中には麻黄という生薬が含まれていて、皮膚や粘膜など表面の浮腫を改善するといわれています。鼻汁が水様で多く出る場合には、小青竜湯がよく使われます。これは、小青竜湯が、もともと「水」のめぐりが悪くなりやすい体質の人が、花粉という刺激を受けて花粉症になってしまったような場合に有効だからです。同様な症状で、より手足が冷え、寒がりの方には、苓甘姜味辛夏仁湯の方が良い場合が多いです。小青竜湯の中には麻黄という生薬が含まれているのですが、麻黄が胃もたれを起こしたり、動悸を起こしたりすることがあります。その点、麻黄が入っていない苓甘姜味辛夏仁湯は、おなかが弱い方やお子さんでも服用しやすいのです。花粉症に効く漢方はたくさんありますが、個人個人の体質に合ったものももちろん一番よく効きます。

ここで紹介した漢方薬の他にも、100種類近い漢方エキス製剤がありますし、時には組み合わせることもあります。また、花粉症だけでなく、アトピー性皮膚炎や気管支喘息などのアレルギー性疾患にも、1~2種類の漢方薬を服用することによって、皮膚の痒みや乾燥感が軽くなったり、喘息発作の頻度や風邪を引く頻度が減ったりするなどの効果が期待できます。漢方薬は、長く飲まないとか効かないとか、効き目が穏やか、すぐに効果が現れない、というイメージがあるかもしれませんが、花粉症の場合は、1週間で効果の有無がわかりますし、病院で漢方医学的診察を受ければ、より適した安全な漢方薬を処方してもらえます。

一度試してみられてはいかがでしょうか。



ようこそ

助産外来へ



産科婦人科外来では、平成27年7月から助産外来を始めました。助産外来では、経過が順調な妊婦さんを対象に、助産師が主体となって数回の妊婦健診を行います。超音波で赤ちゃんの様子と一緒にしながら、赤ちゃんへの愛着が深まるような手助けを行います。また、妊婦さんが自分らしい出産をできるようなバースプランをご家族とともに考え、赤ちゃんとの産後の生活について具体的なイメージができるよう支援します。医師とも連携しており、交互に妊婦健診を行うような形態です。

是非、助産外来で素敵な妊娠生活を送って、出産を迎えてみませんか？

■健診日時：
火曜日と木曜日/9:00~12:00

■場 所：
外来診療棟2階/産科婦人科外来

*予約制で、1人につき1時間枠で実施しています

【問い合わせ先】産科婦人科外来

☎ 076-265-2000

(内線7598)

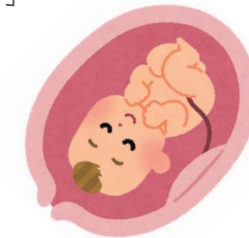
■受付時間:平日9:00~17:00

「妊婦さんからこんな声を頂いています！」

「親身になってゆっくりみてもらえてよかった」

「医師には聞きにくい簡単なことも気軽に聞いて不安がなくなった」

「赤ちゃんの様子を細かく話してもらえ、妊婦健診の中で一番楽しかった！」



緩和ケアセンター

～がんとわかったときから始まる緩和ケア～

平成27年4月、石川県がん診療連携拠点病院である金沢大学附属病院に、院内の緩和ケアチームと緩和ケア外来を統合した「緩和ケアセンター」を新たに開設しました。

緩和ケアとは、重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアです。

センターのメンバーは、医師(がん高度先進治療センター医師、麻酔科蘇生科医師、神経科精神科医師)、看護師(看護師長、がん看護専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師)、がん専門薬剤師、医療ソーシャルワーカーで構成されています。



●緩和が必要な苦痛をもれなく早期に発見し、必要に応じて緩和ケア外来やがん療養相談、緩和ケアチームの専門的緩和ケアが提供されるように調整します。

●心と体のつらさがある入院中の患者さんに対して、緩和ケアチームが主治医や病棟看護師と連携しながら専門的緩和ケアを行います。

◆緩和ケアセンターの活動

●がん患者さんとそのご家族ががんを診断された時から安心・納得して治療を受けることができるように、「がん療養相談」を行います。

緩和ケアセンターでは、がんを診断された時からより迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供し、外来、入院、地域社会で生活することを支援します。

■がん療養相談のご案内

《相談内容》

がんのことやがんの治療について相談したい
医師から説明を聞いたけど、難しくよくわからない
副作用がつからなくて、治療を乗り切れるか心配
つらい症状があって、困っている
病気や治療のことを家族にどのように話せばよいのだろう など

- 対象となる方/がん患者さんご家族
- 日 時/毎週月～金曜日(祝日、休診日は除く) 9:00~16:00、1回30分まで
- 場 所/外来診療棟2階 療養相談室(内科処置室横)
- ご利用方法/予約制となっております。主治医、看護師にご相談ください。
- 費 用/医療保険が適用されます。

1 ●看護師による「看護用具工夫作品展」を開催

●看護師が自身の経験やアイデアをもとに看護用具を作成し、10月1日～2日、金沢大学附属病院宝ホールで「看護用具工夫作品展」を開催しました。この作品展は、入院中や退院後の患者さんの生活が快適になることを願って毎年開催しており、今回で45回目の開催となりました。

当日は、33点の看護用具工夫作品が展示されたほか、患者さんの安心につながる取り組みを紹介した各病棟の手作りポスターや、院内の散歩におすすめのスポットを紹介したマップなども展示されました。訪れた患者さんや院内のスタッフは「これいいね」と言いながら、ひとつひとつの作品をじっくりと鑑賞していました。



作品名
「飲んだよ！
お知らせお薬ポケット」

- ① 内服薬を、朝昼夜に分けて1週間ごとにセットします。
- ② 1回分の内服薬を飲んだ後、ポケットへ「飲んだよ」カードを入れます。
- ③ 家族や訪問看護師は、カードを見て薬を飲んだか確認できます。



「飲んだよ！お知らせお薬ポケット」を作成した東病棟4階看護師のみなさん

患者さんが自宅でも薬の飲み忘れなく過ごせるように、この作品を作りました。



作品名
「抱きまくらfeat.W2」

抱きまくらに縫いつけられた輪の部分に患者さんの腕を通し、抱えてもらいます。腕を良肢位に保つと同時に、柔らかなクッションを抱えることで安心感を提供でき、鼻のチューブや点滴に触れることを防ぐクッションです。

脳神経外科に入院中の患者さんに使っていたとき、快適な入院生活を送っていただけるように考案しました。



「抱きまくらfeat.W2」を作成した西病棟2階看護師のみなさん

2 ●テレビ会議システムを活用した北陸地区臨床倫理事例研究会を開催

●臨床における倫理的問題に関する事例検討を通して医療者の倫理的感性を高め、倫理的問題に対応する能力を養うことを目的とし、9月19日、第4回北陸地区臨床倫理事例研究会を開催しました。この研究会は、平成24年に小藤幹恵看護部長を会長として立ち上げ、年1回定期的に開催しているもので、今回は県内外の各施設から看護職を中心に260名の参加がありました。この研究会の特徴は、金大病院CPDセンターを主会場として、能登地区の5病院、加賀地区の2病院とテレビ会議システムで中継し、双方向でリアルタイムに意見交換が行えることです。また、レギュラー講師である倫理の専門家から



助言を受けることができます。臨床倫理とは、医療者が患者さん一人一人の人生に関心を持ち、その人にとっての最善を考えることです。「患者さんにとって少しでもよい医療、よいケアを行いたい」という思いを持って実践していく中で、さまざま

な困難や問題にぶつかり、どうしたらよいかと迷うことがあります。この研究会では、参加者が悩み迷った事例について、患者さんがその人らしい生き方ができるようワークショップ形式で検討が行われ、治療継続に伴う患者さんの思いを支援することや、患者さんの自由を保証するケアについて意見交換が行われました。職種や経験によっていろいろな見方、考え方があり、意見交換を通して参加者が日頃のケアを振り返り、問題解決のためのヒントを探る良い機会となりました。

3 ●医学教育等関係功労者表彰を受賞

●看護部の安藤絹子副看護師長と、放射線部の倉田雄一副診療放射線技師長が、文部科学省の医学教育等関係功労者表彰を受賞しました。この表彰は、医学または歯学に関する教育、研究もしくは患者診療等の補助的業務に関し、顕著な功績のあった方を表彰するものです。安藤看護師は、院内移植コーディネーターとして肝移植や腎移植に関わり、ドナー家族のサポートや院内調整を通して移植医療に貢献したことが評価されました。また、倉田技師は、放射線治療事故防止マニュアルの作成や実践により、医療安全や放射線治療技術の質の担保に貢献したことなどが評価されました。



看護部 安藤 絹子



放射線部 倉田 雄一

4 ●臓器移植対策推進功労者表彰を受賞

●検査部の南部裕子主任臨床検査技師が、厚生労働省の臓器移植対策推進功労者表彰を受賞しました。この表彰は、臓器移植対策の推進に顕著な功績のあった方を表彰するものです。南部技師が院内の脳死判定時の検査環境を整備してきたことや、脳死判定に伴う臨床検査についての知識や技術の啓蒙を行っていることなどが評価されました。



検査部 南部 裕子

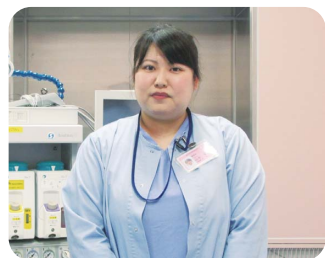
認定看護師とは、特定の看護分野において、
 熟練した看護技術と知識を有することが認められた看護師のことです。
 水準の高い看護を実践したり、スタッフの指導や相談に対応したりできる看護のスペシャリストとして、
 本院では現在13名の認定看護師がそれぞれの看護分野で活躍しています。
 今回は、今年度新たに認定看護師となった3名をご紹介します。

新・認定看護師

手術看護認定看護師

手術看護認定看護師には、麻酔や手術による二次的合併症を防ぎ、患者さんが安全に手術を受けることができるように支援する役割があります。また、手術治療を中心とした周術期において、継続看護を実践していくことも重要な役割です。チーム医療として多職種が関わり合う手術治療ではそれぞれの職種が専門性を発揮する必要があり、互いに連携しなければ安全な手術は成り立ちません。チーム医療における看護師として各々の役割を認識・調整し、協働していくことを大切にしながら、知識・技術・理論に裏付けされた周術期看護の実践を目指して取り組んでいきます。

高度化・複雑化する手術に対応すべく技術を高める努力は欠かせませんが、そのような中でも常に倫理的観点を持ち、麻酔下で意識のない患者さんにとって一番の擁護者・代弁者として役割を果たせるよう努力しています。手術は誰もが経験するものではなく、非日常的な出来事といえますが、患者さんが主体的に選び決心した手術を安全に・安心して受けることができ、少しでも早く



手術部
山本 愛依
YAMAMOTO Ai

思い描いている生活に戻ることができるよう支援させていただきたいと考えています。麻酔や手術に対する不安や恐怖、ご不明な点などがありましたら、どうぞ遠慮なくお声をおかけください。

がん化学療法看護認定看護師

多くの皆様のご協力とご支援のもと、2015年7月7日、日本看護協会の認定審査に合格し、がん化学療法看護認定看護師となりました。がん化学療法は分子標的治療薬をはじめとする多くの新規薬剤が導入され、目覚ましい発展を遂げています。また入院期間の短縮化、支持療法の進歩により外来での治療が主流となり、社会生活を送しながら長期にわたり化学療法を継続する患者さんが増えています。そしてこれら

の変化に伴い、がん化学療法に携わる看護師に求められる役割は大きくなっていると実感します。抗がん剤は副作用を伴う薬剤のため、心身の負担を担いながら治療継続することはこれまでの日常生活に大きく影響します。外来では入院時に比べて医療者が関わる時間が少なく、患者さんへのセルフケア支援が重要となるため、何気ない会話の中でそのつらさや思いに気づけるよう、治療開始以前の過ごし方や、生活



外来
海野 泰好
UMINO Hiromi

上価値をおいている事柄、習慣といった個別性に目を向け、不足するセルフケア能力を支える支援につなげていきたいです。

集中ケア認定看護師

平成27年7月、日本看護協会の認定審査に合格し、金沢大学附属病院で2人目の集中ケア認定看護師となりました。ICUに入室される患者さんの多くは、身体的にも精神的にも過大な侵襲を受けており、患者さんの全エネルギーはその侵襲に立ち向かうために使われています。そのような状態の患者さんでは、良かれと思いついたケアが逆効果になることさえあるため、私たちは常に細心の注意を払い根拠あるケアを提供できるよう心掛けています。また

生命の危機状態から回復されたあとも、患者さんは著しい体力の消耗や後遺障害などから退院後の生活の質が大きく損なわれる場合があります。そうした患者さんの治療に伴う不利益を最小限にするため、退院後の生活を見越して早期から機能維持のための働きかけやリハビリテーションを行っていくのは、私たちクリティカルケア分野で働く看護師の大切な役目だと思います。治療が優先される中でも、その人らしい生活を取り戻すために



ICU
田畑 亜希子
TABATA Akiko

何が必要かという視点を持ち続け、『治療で受ける利益は最大に！ 伴う不利益は最小に！』をモットーに、早期回復に向けてのお手伝いをしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

「金沢大学病院の歴史をひもとく」

高安右人先生と 高安病

副病院長・眼科長 杉山和久



●高安右人先生の肖像

高

たかやすみきと

安右人先生は高安病の発見者であるとともに、34

先生の胸像は医学系(旧医学部の玄関の前にあり、先生の墓は宝円寺(金沢市宝町)にある。

高安右人先生(1860～1938年)の経歴

高安右人先生は、万延元年(1860年)7月19日肥前国小城郡板屋村(現佐賀県多久市西多久町)に生を受けられた。明治20年1月東京帝

国大学医科大学卒業、明治20年3月眼科助手となり、明治21年3月第四高等学校医学部に着任した。同年4月金沢病院眼科科長、明治23年6月第四高等学校医学部教授、明治27年9月金沢病院長に就任した。明治32年7月に文部省より眼科学教授上の改良進歩を期するため、その設備方法の視察を命ぜられ、明治32年9月より2年間ドイツに留学した。明治34年6月帰国し同年7月に金沢病院眼科部長、同年10月に金沢医学専門学校校長兼教授、明治36年5月には金沢病院長に就いた。大正12年4月に旧制金沢医科大学(現金沢大学医学系)の初代学長となる。大正13年に退官後、金沢市内で開業した。その後昭和9年12月に在住47年の金沢を離れて別府に居を移した。昭和13年11月20日逝去、享年78歳であった。

高安病の発端となる

高安病の発端となる報告は、明治41年(1908年)4月2日福岡で開催された第

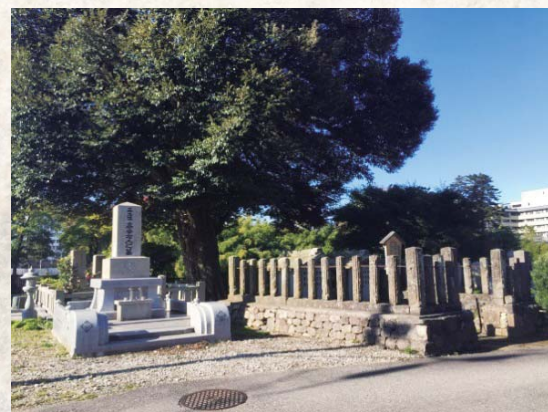
「高安病」の疾患概念 成立への道のり

大西克知先生(福岡医科大学教授、後に九州帝国大学教授)は第12回日本眼科学会総会の席上にて、同様な眼所見を有す症例において両側の橈骨動脈脈拍が触知できないことも特徴の1つであることを追加討論した。以後本症例は、「高安病」または「高安—大西病」と称された。

1926年東大眼科の中島實先生(後に金沢大学眼科教授)は同様な症例を観察し、これらの症例を1つの独立疾患として位置づけ「高安病」を提唱した。その特徴として①多くは20歳前後の若い女性に発症し、両眼性であること②眼底は視神経乳頭周囲の動脈脈管、ならびに網膜血管に瘤状の血管拡張が散見されること③視力は不

良で、白内障を合併すること④全身の循環系統の異常を伴い、橈骨動脈を触れないことの4項目を示した。

本疾患の眼病変の発現は眼底血圧の低下に基づいていることが報告され、高安病の発症機転が大動脈弓起始部の狭窄に由来することが明らかになった。また、外科医であった清水健太郎先生は、その身体的特徴から本病態を「脈無し病」と命名した。その後様々な研究者によって、大動脈弓及びその分枝である頸動脈や鎖骨下動脈への炎症により動脈内腔が狭窄または閉塞し、続発する上半身の虚血が脈なし病の病因であることが明らかにされた。さらに後の研究によつて、高安病の病変は、大動脈弓とその主要分枝にとどまらず腹部大動脈、腎動脈など広い範囲の血管に及ぶことが判明した。



●宝円寺にある高安右人先生のお墓(左)、右隣は加賀藩前田家の墓

高安病の眼症状は、大動脈弓、頸動脈の狭窄、閉塞による血行不全による慢性の網膜・脈絡膜の血液循環不全によつて生ずると考えられる。また、本病態を動脈炎が大動脈およびその主幹分枝を侵し、炎症による狭窄によつて発現する症候の総括と定義し、「大動脈炎症候群」と称される。現在、日本では「高安病」または「大動脈炎症候群」と呼ばれている。

がん骨転移の痛みでお困りの患者さんへ

金 沢大学附属病院では、がん骨転移の痛みを緩和する核医学治療を行っています。塩化ストロンチウム-89という物質を注射する治療です。塩化ストロンチウム-89は、がん骨転移部位に集まり、放射線を出します。この放射線が、痛みに関わる細胞や要因を取り除き、痛みをやわらげてくれます。

塩化ストロンチウム治療

- ★外来で1回注射するだけの治療ですので、入院の必要はありません。
- ★約6～7割の患者さんで効果が期待でき、1回の治療の効果は3ヶ月程度持続します。
- ★保険が適用されます。
- ★副作用には、骨髄抑制(血液中の白血球や赤血球、血小板が減少するもの)がありますが、血液検査などで様子を見ながら、必要に応じた処置を行います。

がん骨転移の痛みは、生活の中で行動制限や精神的ストレスを引き起こしてしまいます。痛みを取り除くための治療方法には、鎮痛剤や放射線照射、塩化ストロンチウム治療などがあり、これらの治療方法にはそれぞれ特徴や長所・短所があります。塩化ストロンチウム治療の前に、この治療が適しているかどうかの判断が必要ですので、治療をご希望の方は、まずは現在診ていただいている先生にご相談ください。

その後、核医学診療科の予約をとっていただきます。

わからないことがありましたら、お気軽にご相談ください。



核医学診療科 医師
松尾 信郎

がん患者さんご家族のつどう場所

がんサロン『ハーモニー』

仲間と出会い語り合いたい、
体験に基づくさまざまな情報を得たい、
医師など専門職から話を聞きたい…、
そのようなときは、
がんサロン『ハーモニー』へ
お越しください。



■原則毎月第3水曜日(14:00～15:30)に病棟10階デイルームで開催しています。医師や薬剤師などから毎回異なるテーマで、がんに関わる話を聞くことができ、参加された方が自由に語り合うおしゃべり会もあります。

●予約は不要で、途中の出入りも自由です。

【問い合わせ先】がん相談支援センター
☎076-265-2040 / 平日9:00～17:00

開催予定は
Webサイトへ!

金沢大学附属病院 がんサロン『ハーモニー』



お願い

環境整備中のため駐車場が混雑しており、ご来院の皆さまには大変ご迷惑をおかけしております。特に午前中の混雑が予想されますので、ご来院の際は公共交通機関等をご利用いただきますよう、ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。



KindaiHospitalToday Vol.18

編集・発行 / 金沢大学附属病院
病院広報誌編集委員会
(事務担当: 総務課調査・広報係)

TEL: 076-265-2000 FAX: 076-234-4320

■皆さまからのおたより、ご意見をお待ちしております